

# CASBEE<sup>®</sup> - 建築(新築) | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2014(v.2.0)

1-1 建物概要			1-2 外観	
建物名称	(仮称)向日市寺戸町計画 新築工事	階数	地上3F	
建設地	京都府向日市寺戸町	構造	S造	
用途地域	近隣商業地域	平均居住人員	0 人	
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年	
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工年	2017年3月 0.0	評価の実施日	2015年3月18日	
敷地面積	12,464 m <sup>2</sup>	作成者	鈴木	
建築面積	2,186 m <sup>2</sup>	確認日	2015年3月18日	
延床面積	6,448 m <sup>2</sup>	確認者	中條	

### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 0.8** ★★☆☆☆☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

☆☆☆☆☆☆

標準計算

①参照値	100%
②建築物の取組み	57%
③上記+②以外の	57%
④上記+	57%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 2.3**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア= 0.0

音環境	2.0
温熱環境	2.0
光・視環境	2.0
空気質環境	2.0

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア= 2.3

機能性	2.2
耐用性	2.4

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 2.4

生物環境	2.0
まちなみ	3.0
地域性	2.0

### LR 環境負荷低減性

**LR のスコア = 3.4**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア= 4.4

建物外皮の	3.0
自然エネ	N.A.
設備システ	5.0
効率的	3.0

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 2.8

水資源	3.0
非再生材料の	2.6
汚染物質	3.0

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 2.8

地球温暖化	4.7
地域環境	2.1
周辺環境	1.6

3 設計上の配慮事項		
総合		その他
自走式の立体駐車場の一般建築物(閉鎖型建築物)ではなく、開放性のある建物として設計し、換気設備や、建築材料(内装)の使用を極力無くした設計をした。		特になし
<b>Q1 室内環境</b>	<b>Q2 サービス性能</b>	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>
換気設備を設けずに、自然換気が出るように外周部に十分な開放性のある外壁面とした。	外装設計において防錆対策として溶融亜鉛メッキ仕上げを採用	敷地内の空き地は極力植栽を配置した。
<b>LR1 エネルギー</b>	<b>LR2 資源・マテリアル</b>	<b>LR3 敷地外環境</b>
外壁部の開口を開放とすることで自然換気、自然排煙、自然採光を積極的に利用した。	構造部材と仕上げ材が容易に分解できる構造としている。	道路沿いには極力植栽を配置し、警官に配慮した。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される